



運動会のスローガン これからが本番

運動会から2週間が経ちました。全校朝会では、みんなが思いを込めて作った運動会スローガンですから、その思いを実践していくのはこれからが本番ですよという話をしました。あれだけ素晴らしい運動会をやりとげたのだから、その思いをこれからの学校生活にも活かしてほしい。運動会のスローガンなので、「勝利」という表現ですが、「絆を深め合い 力を合わせて」すばらしい学級、友だち関係、鹿ノ台小学校を目指してほしいわけです。



力を合わせた全校競技は児童会児童の進行でおこなわれました。

《温かい思いは広がる》

そこで、「温かい思いは伝染する」という調査結果をもとに取り組んだアメリカの大病院で取り組まれた実践(「10/5 ウェイ」)について紹介しました。これは、毎日新聞の日曜版連載コラム(9月10日「心のサプリ」海原淳子著)で取り上げられていたものです。温かい思いを広げるため、誰かが10フィート(3



m)以内に近づいたら目を合わせて微笑みかけ、5フィート(1.5m)以内に近づいたら「こんにちは」と挨拶をする取組を行ったところ、病院利用者の満足度が上がったというものでした。見知らぬ人の出入りの多い大病院で、人と人とのつながりを大切に、温かい心や温かい眼差しを意識した結果、その思いが「伝染」(海原氏の表現から)して病院全体に広がり病院経営にも良い効果をもたらしたようです。

《鹿小でも実行中》

でも、この取組、考えてみたら鹿ノ台小学校で子どもたちがまさに今、実践中の取組と似ています。登校時、少し離れたところから目が合うとにっこり微笑んで挨拶してくる子が増えました。廊下ですれ違う時に、会釈をしたり「こんにちは」と声をかけたりする子が多くな



りました。私が別の子と正門でお話をしていると、話が終わるのを待って、お辞儀をして挨拶する



子がいました。目が合う子が本当に増えたと思います。1学期は、あいさつをがんばろうという意識を感じましたが、今は、あいさつをすることが定着して自然なものとなっているように感じられます。こうした取組を、今後ももっともっと広げていってほしい、仲の良い友だちや先生たちにだけでなく、違う学年の子ども同士でも実践していってほしいと願っています。

《さらにここがけてほしいこと》

もう一つ付け加えて話したことがあります。それは、この「10/5 ウェイ」の取組のおおもとになった調査研究では、「無礼なふるまいがチームのパフォーマンスを低下させ、礼節ある環境をつくることが肝要」との見解が示されています。ですから、子どもたちには、例えば、人のことを見下したり悪口を言ったりせず、「人の話を途中で邪魔せず、最後まで聞くようにしましょう。」「人の頑張りを素直に認めて褒めていきましょう。」と呼びかけました。

運動会のスローガンで打ち出した「絆を深め合い、協力し合う」こと、運動会で見た素晴らしい力を普段の学校生活の中でも発揮していくためにも、「温かい思いを伝染する」ことをもっともっと意識して押し広げていってほしいと願っています。だから、運動会のスローガンは、運動会で終わりではなく、これからが本番なのです。

運動会における「鹿小らしさ」

《係の解散式》

10月27日(金)の昼休み、運動会の係の解散式をしていました。進行係や放送係、準備係、出発係、決勝係、保健係、得点係に応援団です。係の仕事について振り返って反省を書いたり、用具の片づけをしたりしていました。とりわけ応援団は、活動期間が他の係よりも長く、子どもや担当の先生との関わりが深いため長い時間をかけてまさに「解散式」にふさわしいセレモニーとなっていました。担当の先生が熱く語り、応援団一人ひとりが感想や団員たちへの感謝を述べ、汗のしみ込んだ襷や鉢巻(洗濯しアイロンがけして)を担当の先生に手渡ししていました。団長に涙ながらに手紙を渡す5年生がいたり、最後に肩を抱き合って泣いたりしている姿が見られました。



応援団の解散式の様子

《係活動がんばる5、6年生はカッコいい 下級生のあこがれ》

こうした5、6年生の「カッコいい」姿は下の学年の児童らの憧れであり、「鹿小らしさ」として引き継がれてきたのだし、これからも引き継がれていくのだと思います。1年生の教室では、運動会前日、応援歌を楽しそうに嬉しそうに大きな声で歌って練習していました。運動会当日、応援団長の涙にもらい泣きした1年生がいたといえます。4年生のある学級では、応援練習の後、タオルを頭に巻いて応援団の真似をしている子がたくさんいました。4年のある担任は、運動会当日、「来年は、君たちが5年生になったら担当する。応援団だけでなく、5、6年生のそのほかの係活動もしっかり見ておきなさい。」と話していました。子どもたちは、当日までの高学年が運動会を支える様子を見て、「カッコいいなと思いました。みんなを引っ張ってくれてそういうところがすごい。」(児童作文Aより)と感じているようでした。とりわけ、閉会式後の応援団長のあいさつは、応援団以外の子どもたちの心を大きく揺さぶったようです。

開会式エールの交換



「団長は泣いていて、どれだけくやしいのかが伝わりました。6年生にとっては最後の運動会なのでとてもくやしいと思います。」(児童作文Bより)

「カッコよくて、楽しんで、わらって、泣いて。最後の団長の泣きで、もらい泣きをしてしまいました。かなしいけど、みんなが楽しそうで、ぎゃくに楽しかったです。」(児童作文Cより)

応援団を中心に各色が一つにまとまったという実感があるから「みんなが楽しそう」に感じたのでしょう。

「鹿小らしさ」をどう出していくのか悩み、議論し続けて、計画してきた運動会です。競技に熱中する子ども達の姿や高学年児童の係活動のきびきびとした動き、子どもたちの感想に触れ、今回の運動会がその「らしさ」を少しでも感じられるものとなったのであれば、幸いです。運営にご理解とご協力をいただきありがとうございます。



ドンゴロスと並べるために待機する準備係



順位を発表する決勝係



開会式で校旗等を持って入場する進行係



ピストルをうつ出発係

うまく写真が撮れませんでした。このほかに、放送、得点、保健係があります。体育委員会が開会式の準備体操を担当しました。